

JOMF 派遣医師便り (2013. 10)

◆マニラ◆

肺結核で亡くなった若き数学者ニールス・アーベル

マニラ日本人会診療所

菊地宏久

肺結核は世界中で多くの人々を悩ませ続け尊い命を奪ってきました。壮大なアイデアで革命的な思想をもたらした数学者ニールス・アーベルも 27 才の若さで、肺結核で亡くなりました。アーベルを苦しめた肺結核は現在でも大きな保健衛生上の問題となっています。世界中で毎年約 1000 万人が発症し 100 万人以上が死亡していると考えられています。日本でも年間約 2-3 万人が発症（毎日 80 人）しています。フィリピンではその 10 倍であろうと考えられています。今回は数学者アーベルと、彼を死に至らしめた肺結核についてお話いたします。

アーベルは 1802 年ノルウエイに生まれましたが、貧困と過労により 27 歳の若さで肺結核によりこの世を去りました。たった数年間の研究を通し通常の数学者であれば数百年かかるであろう革命的な数学思想を彼は一人で打ち立てました。理科系を専攻した方は彼の生き方を読み、憧れて数学者になろうとした方もいるかもしれません。私もその一人でした。その偉大なアーベルは、アーベル代数、アーベル積分、アーベル関数、アーベル多様体、アーベル幾何学、アーベル楕円関数など非常に多くの業績を残しました。

しかし肺結核には勝てませんでした。1829 年アーベル 27 才、恋人クリスチーネに最後の瞬間を看取られ、血を吐きながら、「どうしても生きたい、生きなければ！」と叫び続け最後の瞬間を迎えました。貧困と病に苦しみながら数学の世界に大きな足跡を残したアーベル、志半ばにして倒れさぞ無念であったろうと思います。数学の巨匠シャルル・エルミートはアーベルを評して「彼の残した業績のお陰で、数学者はこれから 500 年の間多忙でいられるであろう」と語ったと言われています。

アーベルの時代にはまだ抗結核薬は発明されておらず、結核は不治の病とされていました。安静と療養しか治療法がありませんでした。結核の化学療法はストレプトマイシン（昭和 19 年、1944 年発見）に始まりましたが、アーベルの死後 100 年以上を待たなければなりません。現在では種々の薬や治療法が開発され、適切に治療すれば結核は完治する疾患となっています。しかし感染症の予防や治療には患者さんだけでなく周囲の理解と協力が非常に大切です。尊い命を守るために、肺結核予防対策や治療の改善を進める動きが地球全体で続いています。